

おじいちゃんの独り言 (その3)

高木 清



万代町のこれから

この辺で、私の経験に基づいて商店街活動に対する意見を述べてみる。
①まず大衆の要望に配慮すること、はじめて支持され存続できる。
②自分の好きなことをする。
以上2点。

自分のことに当てはめてみると、まず①では、旅館を廃業してレストランとした経緯が当てはまる。ここが喧騒の地となつたため、旅館には不適當と考えた。そして、松江に洋食屋がなく、幸い洋食修業の経験があったのでレストランを開業した。当時の繁盛ぶりから、大衆の要望に配慮することが出来たと自負している。その後、レストランを廃業して楽器店一本に絞った経緯も同様であるので省略する。
②については、道楽でやってきた音楽を商売にしたこと。私が思うに、およそ都市の形態も一家の設計も同じ事だ。応接間があり、居間・書斎・台所等それぞれ色彩があつて然るべき。

き。松江はその点、雑然として文地区に娯楽施設があったり、例えば、東京の国立市のように、はつきり色を出すべきだろう。万代町は、庶民のレジャー！ショッピングの場所というのが適當だと思ふ。

商売の諸条件は皆様ご承知のとおり変遷を遂げ、この地は大衆の要望に配慮されぬ地域となりつつある。今ここに、都市計画に基づき大きく変わろうとしている。当然の社会現象であり遅かれ早かれいづれ訪れる問題だった。この時期に、次代を担う若人が意欲的に活躍されている事は誠に喜ばしいことだ。こんな事の例えが言われている。

人は3つ惚れなければならぬものがある。
①土地（愛郷精神で社会に貢献する）
②妻（家庭円満）
③仕事（好きこそ物の上手なれ家業繁栄）
また、私の好きな言葉に『火中の栗を拾う』というのがある。損得を無視して、正しいと思うことを勇氣を持って行うこと。
一般市民の皆様の要望をよく研究され、悔いのない、また支持される商店街活性化計画が出来上がることを望んで筆を置きます。



昭和8年11月 万代町私設消防隊設置記念

トワイライトゾーン

万代町の子供達 (その3)

片岡千恵蔵、市川右太衛門、中村錦之介等々、キラ星の如く時代劇スタールのボスタ！が町内の映画館を飾った頃。腕白たちも、棒っ切やおもちゃの刀を振り回して、日がな、駆けずり回っていました。そんな頃、映画館の前に時折、時代劇の妄想に取り憑かれた精神障害の方が、現れることがありました。鉢巻きに五寸釘の手里剣、長い竹竿の刀、新聞紙の懐紙、劇中の人物に成りきって、一人で刀を振り回していました。物陰から囁し立てる悪ガキたちは、見つかると、五寸釘を投げられ、本気で追いかけて回されました。子供たちが追い散らすと、氏中、再び劇中の人物に没入するのでした。チャンバラ一色の暢気な時代のお話です。



お店紹介

スイングレコード



『いつも心に音楽を……』をモットーに昭和四八年より駅通店として営業しております。

ニューミュージック。ポピュラー。アニメを中心に在庫を豊富に揃えております。

店頭が無い商品でもご希望のものがありませんら取り寄せますので、お気軽にお申し付け下さい。

営業時間 十時から

二十時半まで

年中無休（元旦はお休み）

電話 24-3627